

美術

美術科においては、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させることで、美術を学ぶことに対する必要性を実感し目的意識を高めることが大切です。

◆ 「内容のまとめり」の考え方

美術科における「内容のまとめり」は、学習指導要領の「第2 各学年の目標及び内容」「2 内容」に次のように示されています。

感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現
 ・・・・「A 表現」(1)ア(2)、[共通事項]
 目的や機能などを考えた表現
 ・・・・「A 表現」(1)イ(2)、[共通事項]
 作品や美術文化などの鑑賞
 ・・・・「B 鑑賞」、[共通事項]

◆ 内容のまとめりごとの評価規準の作成

①学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを確認します。

※「評価の観点及びその趣旨」は、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「改善等通知」(別紙4 16ページ)を参照してください。

②美術科における「内容のまとめり」と評価の観点の趣旨との関係を確認します。

※(知識及び技能)は「知識・技能」、(思考力、判断力、表現力等)は「思考・判断・表現」と対応しています。

③観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。

※「観点ごとのポイント」は、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料「中学校美術(30～31ページ)を参照してください。

【「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」の内容のまとめりごとの評価規準(例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。
		<p>※必要に応じて学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。</p> <p>※太枠で囲まれた内容を踏まえ、題材の評価規準を作成します。</p>

◆ 題材の評価規準の作成

美術科における評価に当たっては、「内容のまとめりごとの評価規準」を基に「題材の評価規準」を設定し、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価することが大切です。

例えば、「花の美しさを絵に込めて」の題材と関連する「内容のまとめり」は、「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」と「作品や美術文化などの鑑賞」です。それぞれの「内容のまとめりごとの評価規準」から、次のように「題材の評価規準」を作成することが考えられます。

【「花の美しさを絵に込めて」の題材と関連する「内容のまとめりごとの評価規準(例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
※枠囲みは、「内容のまとめりごとの評価規準」		※下線部は、「作品や美術文化などの鑑賞」に関する評価規準

【「花の美しさを絵に込めて」の題材の評価規準(例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p>	<p>思 花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>表 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく花の美しさや生命感などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなど見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

◆ 学習評価に関する事例

1 題材名

「花の美しさを絵に込めて」

2 内容のまとめ

第1学年 「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」（「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)、[共通事項](1)アイ）及び「作品や美術文化などの鑑賞」（「B鑑賞」(1)ア(ア)、[共通事項](1)アイ）（全7時間）

3 題材の目標

- (1)「知識及び技能」に関する題材の目標
 - ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解する。（[共通事項]）
 - ・水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表す。（「A表現」(2)）
- (2)「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標
 - ・花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。（「A表現」(1)）
 - ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。（「B鑑賞」(1)）
- (3)「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標
 - ・美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく花の美しさや生命感などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

4 題材の評価規準

※前ページ【「花の美しさを絵に込めて」の題材の評価規準（例）】を参照

5 指導と評価の計画（7時間）

※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

時間	○ねらい・学習活動	知・技	思	能	評価方法
1～3 (一次)	○作者の心情や意図に応じた多様な表現について考える。 ・「花」をテーマにした作品を鑑賞する。 ・主題と表現の工夫との関係について考える。				ワークシート 発言の内容 活動の様子
	○主題を生み出す。 ・それぞれの生徒が鉢植えの植物を選び、選んだ理由を考えたり感じたことを言葉で書き表したりしながら主題を生み出す。	○	○	○	ワークシート 活動の様子
	○主題を基に構想を練る。 ・主題を基に創造的な構成を工夫し構想を練る。				アイデアスケッチ 活動の様子
4～6 (二次)	○水彩絵の具の表し方を身に付ける。 ・様々な水彩絵の具の表し方を試す。				試作の作品 活動の様子
	○発想や構想を基に自分の意図に合う表現方法を工夫し表す。 ・自分の意図に応じて、水彩絵の具や筆などの使い方を工夫して表す。 ・他者の作品を見たり、自分の意図を説明したりすることにより、表したいものを明確にしながら作品を完成させる。	○	○	○	制作途中の作品 活動の様子
7 (三次)	○生徒作品や美術作品などから、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。 ・お互いの完成した作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを説明し合う。 ・第一次とは異なる「花」をテーマにした作品を鑑賞し、新たな見方や感じ方を広げる。	○	○	○	ワークシート 発言の内容 活動の様子
題材後		○	○		完成作品 アイデアスケッチ ワークシート

【POINT】

主体的に学習に取り組む態度の評価では、生徒自らが学習の目標を明確にもち、その実現に向けて意欲的に取り組む学習の過程を大切にします。

【POINT】

知識を評価する際は、学習の中で生きて働く知識として実感的に理解した実現状況を評価することが大切です。

【POINT】

技能の評価は、作成途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、技能の高まりを読み取ることが大切です。

【POINT】

発想や構想は、制作が進む中で徐々に具体的な形になり、深まるが多いため、作成途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価することが大切です。

【POINT】

授業外に完成作品をワークシート等と見比べながら、完成品からも再度確認し、授業中での評価よりも高まりがあった場合には修正を加えることが大切です。